

2026 年 7 月 27 日
オリックス株式会社

第三者保有の再エネ電源を活用したバーチャル PPA を提供開始 ～環境価値の集約と供給機能を強化、年間供給量 600GWh へ～

オリックス株式会社（本社：東京都港区、社長：高橋 英丈）は、このたび、株式会社椿本チエイン（本社：大阪市北区、社長：木村 隆利）へ再生可能エネルギー（以下「再エネ」）の環境価値^{※1}を提供するバーチャル PPA（仮想電力購入契約）を開始しましたので、お知らせします。

オリックスはこれまで、自社の再エネ電源を活用した環境価値の提供を進めてきました^{※2}。今回、対象を第三者が保有する再エネ電源にも広げ、全国規模で環境価値を調達・供給する体制を強化します。

バーチャル PPA は、太陽光発電などの再エネで発電した電力と、その電力に付随する環境価値を分離し、環境価値のみを取引する仕組みです。本取り組みでは、東京電力管内で順次運転を開始している第三者保有の太陽光発電所 10 件（電源容量約 7.7MW、年間想定発電量約 9GWh）をオリックスが集約し、椿本チエインの埼玉工場へ環境価値を提供します。これにより、椿本チエインは年間約 3,789 トン^{※3}の CO₂ 排出量削減に相当する環境価値を活用できます。

2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、需要家の脱炭素ニーズの高まる中、オリックスはグループの営業ネットワークを活用し、第三者が保有する全国の再エネ電源と環境価値を求める需要家を結びつける取り組みを強化しています。豊富な顧客基盤と需要家ニーズを背景に、環境価値の供給規模を拡大しており、今年度中には年間 600GWh 相当を供給できる体制の構築を見込んでいます。

オリックスは、今後も再生可能エネルギーの主力電源化に向けた取り組みを推進するとともに、第三者電源の集約とバーチャル PPA の提供を通じて、再エネの環境価値を需要家へ安定的に供給する体制を拡充し、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

※1 再エネで発電した電力が持つ、二酸化炭素（CO₂）を排出しない付加価値のこと

※2 [2024 年 5 月 24 日付リリース：FIP 制度を活用したバーチャル PPA 取組を開始](#)

※3 約 9,000,000kWh（年間想定発電量）×0.421kg-CO₂/kWh（東京電力 CO₂ 排出係数）＝約 3,789 トン

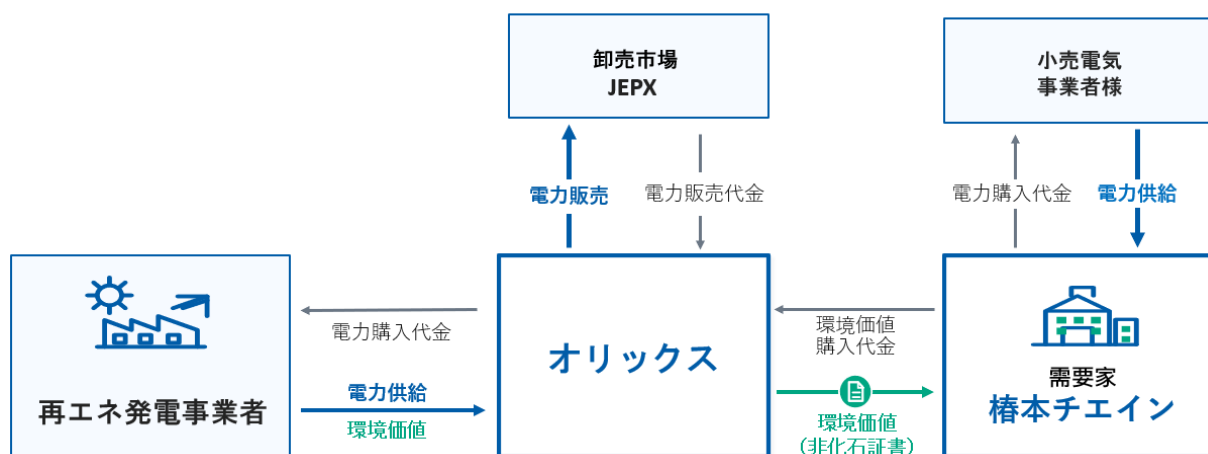
（出典：[東京電力エナジーパートナー株式会社「2024 年度の CO₂ 排出係数について」](#)）

以 上

< 報道関係者からのお問い合わせ先 >

オリックス株式会社 グループ広報・渉外部 TEL：03-3435-3167

■スキーム図



導入するバーチャル PPA の概要

1. 需要家:株式会社椿本チエイン
2. 対象電源:複数の再生可能エネルギー電源(太陽光発電)
3. 導入時期:需要家がバーチャル PPA を締結し、2026 年度より順次導入
4. 年間想定発電量:約 9GWh *年間約 3,789 トンの CO₂ 排出量削減に相当